



2011年8月15日発行（隔月刊）



う っ 化 か

ISSN1880-8646
2011年8月
第 87 号

横 浜 漢 点 字 羽 化 の 会
〒231-0851 横浜市中区山元町2-105 Tel 045-641-1290
発行責任者 代 表 岡 田 健 嗣
編集責任者 木 下 和 久



目 次

漢点字の散歩（26）（岡田健嗣）	1
点字から識字までの距離（83）（山内 薫）	14
『横浜通信』100号記念特集	18
東京漢点字例会報告とわたくしごと（木村多恵子）	20
東京漢点字学習会報告（菅野良之）	26
ご報告とご案内	29
漢文のページ	31
漢点字講習用テキスト（初級編・第27回）	34
編集後記（木下和久）	35

漢点字の散歩 (二十六)

岡田 健嗣

漢点字紹介 (九)

4. 漢点字のご紹介



⑥ 第二基本文字

第二基本文字は、二マスで表される漢点字です。第一基本文字（一マス漢点字）と共に、主に偏・冠・繞を表します。

第二基本文字は、一マス目に「𠂔」が置かれて、二マス目に「𠂔、𠂔、𠂔」の符号の何れかが置かれます。部首となつて複合文字を形成する際は、一マス目の符号が用いられます。

またこれらの近似文字は、二マス目に「𠂔、𠂔、𠂔」の何れかの符号が置かれます。

ここでは近似文字を、基本文字に続けて、その都度ご紹介します。

(1) 𠂔𠂔 愛 アイ いつくしむ めでる

心が後ろに引かれて、足が前へ進まない様子を表す文字です。子ども・家族・異性への愛、郷土愛、人類愛、愛国心などと用いられます。漢点字では、
「𠂔𠂔」で表されます。

熟語… 𠂔𠂔 人 (愛人) 恋𠂔𠂔 (恋愛)

(2) 𠂔𠂔 光 コウ ひかり ひかる

明るく照らす火を見守っている人を象った文字です。魔の住む夜の闇から人を護る火は、神聖なものでした。漢点字では、「𠂔𠂔」で表されます。

熟語… 𠂔𠂔 (日光) 𠂔𠂔 (月光)

(3) 𠂔𠂔 文 ブン モン ふみ

美しい綾模様を表す文字です。「ブン」と読んで文章を、「モン」と読んで文字の意味に用いられます。

漢点字では、「𠂔𠂔」で表されます。

熟語… 𠂔𠂔 (文意) 𠂔𠂔 (文言)

* 「𠂔𠂔 愛、𠂔𠂔 光、𠂔𠂔 文」の漢点字符号の一マス目「𠂔」は、「𠂔 学」の冠と同様に、ウ冠やワ冠と異なる冠、なべぶたやツワ冠・ノツワ冠などを表し

ます。

例… 京 享 毎 栄

(4) 君 クン きみ

祭祀を司る族長を表す文字です。音読の「クン」も訓読の「きみ」も、国を統治する人を表します。漢点字では、「𪛗𪛗」で表されます。

例… 群 郡

熟語… (君子) (大君)

(5) 川 セン かわ

三本の縦線で表される文字で、三本の大きな水の流れを象っています。小さな流れは水です。漢点字では、「𪛗𪛗」で表されます。

例… 順 馴

熟語… (河川) 山川草

木)

(6) 州 シュウ す しま

川の近似文字です。川の文字の三本の縦線の右側にそれぞれ点を加えた形で、川の中にできた小さな島を表します。漢点字では、「𪛗𪛗」で表されます。

例… 洲 酬

熟語… (九州) (中州)

(7) 工 コウ ク たくみ

建築や細工に用いる工具を象った文字です。また祭祀に用いられる具として、左の文字にも含まれます。漢点字では、「𪛗𪛗」で表されます。

例… 江 紅 功 巧

熟語… (工事) (大工)

(8) 陸 リク おか

海から見えて一段高いところ、陸地を意味する文字です。海に対して陸地は盛り上がっているところから、「おか」と訓読されます。漢点字では、「𪛗𪛗」で表されます。「都」はおおざととして、この「陸」はこざととして用いられます。

例… 院 阿 限 階

熟語… (大陸) (上陸)

(9) 色 ショク シキ いろ

いろどりを意味する文字です。もののいろばかりでなく、顔色、容色、血色と用いられます。漢点字で

は、「𠄎」で表されます。

熟語… 𠄎 彩 (色彩) 𠄎 (金色)

* 漢点字では「𠄎色」の一マス目の符号「𠄎」を前置することで、「𠄎赤、𠄎黒、𠄎黄、𠄎青、𠄎緑、𠄎紫」の6つの色を表します。

(10) 𠄎 冬 トウ ふゆ

季節の冬を表す文字です。漢点字では、「𠄎」で表されます。多くは「𠄎」の形で久(ふゆがしら)を、「𠄎」の形で又(すいによろ)を表します。

例… 𠄎 終 𠄎 各 𠄎 条 𠄎 復

熟語… 𠄎 (冬眠) 𠄎 (玄冬)

(11) 𠄎 久 キュウ ク ひさしい

冬の近似文字です。久(ふゆがしら)に形が似ていますが、異なる文字です。「ひさしい」とは、長い時間、長い時を置いてという意味です。漢点字では、「𠄎」で表されます。

例… 𠄎 灸 𠄎 畝

熟語… 𠄎 (持久力) 𠄎 闊 (久闊)

(12) 𠄎 罪 ザイ つみ

罪を犯すこと、犯された罪を表す文字です。漢点字では、「𠄎」で表されます。「𠄎」の形で、あみがしらを表します。

例… 𠄎 署 𠄎 置 𠄎 買 𠄎 罰

熟語… 𠄎 過 (罪過) 𠄎 (罪科)

(13) 𠄎 虎 コ とら

猛獣の虎を象った文字です。強いものを表します。漢点字では、「𠄎」で表されます。「𠄎」で虎頭(とらがしら)を表します。

例… 𠄎 虚 𠄎 虞 𠄎 慮 𠄎 虜

熟語… 𠄎 (虎視) 𠄎 (竜虎)

* 「𠄎」は、「𠄎(はつがしら)」、久(ふゆがしら)、あみがしら、庀(とらがしら)を表します。また「𠄎」は、「又(すいによろ)」を表します。

(14) 𠄎 鳥 チョウ とり

神聖な鳥の姿を象った文字です。主に鳥の名前に用いられます。漢点字では、「𠄎」で表されます。

例… 𠄎 島 𠄎 鶏 𠄎 鷹 𠄎 鷲

熟語… 𠄎 (水鳥) 𠄎 獣 (鳥獣)

(15)

魚

ギョ

うお

さかな

水に住む魚の姿を象った文字です。頭と胴と尾があります。漢点字では、「𪛗」で表されます。「𪛗」の形で魚偏を表します。

例

鯉

鮮

鱗

漁

熟語

あれば

(魚心あれば水心)

(16)

牛

ギウ

うし

動物の牛の姿を象った文字です。牛は神聖な動物でした。漢点字では、「𪛗」で表されます。

例

解

件

特

物

熟語

(牛車)

風

(風馬牛)

(17)

午

ゴ

牛の近似文字です。杵を象った文字で、干支のうまとして用いられます。漢点字では、「𪛗」で表されます。

例

許

卸

熟語

前

後

(午前午後)

線

(子午線)

午線

(18)

羊

ヨウ

ひつじ

前から見た羊を象った文字です。羊は神聖な動物であり、美しい動物として珍鳥されました。漢点字では、「𪛗」で表されます。

例

義

群

詳

美

洋

熟語

皮

(羊皮紙)

頭

狗

(羊頭)

狗肉

(19)

豚

トン

ぶた

肉月偏と豕(いのこ)で構成された文字で、食用として飼われた猪を表しています。神聖な動物として、珍重されました。漢点字では、「𪛗」で表されます。

(20)

象

シウ

ゾウ

かたち

かた

どる

豚の近似文字です。陸上最大の動物である象を象った文字です。「かたち、かたどる」の訓読と意味で用いられます。漢点字では、「𪛗」で表されます。

例

像

熟語

印

(印象)

現

(現象)

* 漢点字符号「𪛗」は、「馬、牛、羊、豚

「いのこ」を含む文字の多くを表します。動物では草食動物を表します。

(21) 谷 コク たに

山の折り重なった、左右から迫った様子を象る文字です。山と山の間の、狭い地域を意味します。漢点字では、「𪛗」で表されます。

例… 俗 容 欲 浴
熟語… 溪谷 (溪谷) 谷間

(22) 雨 ウ あめ

天から雨の降る様子を象った文字です。気象現象を表す文字に、雨冠として含まれます。漢点字では、「𪛗」で表されます。雨冠は、「𪛗」で表されます。

例… 雲 雪 電 雷 需
熟語… (雨天) 晴 (晴雨)

(23) 両 リョウ ふたつ

雨の近似文字です。二頭立ての馬車に馬を繋いだ形を象った文字です。馬が二頭並んでいるところから二つ、両側の意味で用いられます。漢点字では、

「𪛗」で表されます。

* 漢点文字符号「𪛗」は、「竹冠、雨冠」を表します。

(24) 士 シ

戦士の身分を表す文字です。武器を持つて戦う男子を意味します。漢点字では、「𪛗」で表されます。

例… 吉 仕 志
熟語… 武士 (武士) 騎士 (騎士)

* 第一基本文字の「𪛗」と形が相似していると
ころから、漢点文字符号も「𪛗」となりました。

(25) 居 キョ コ いる

尸(しかばね)と古とで構成される文字です。尸は先祖の形代の形、人が先祖の前に身を屈めて蹲ることを表します。「いる」とは、身を屈めていることを意味します。漢点字では、「𪛗」で表されます。漢点文字符号「𪛗」は、尸を表します。

例… 屋
熟語… 居室 (居室) 住居 (住居)

(26) 老 ロウ おいる

老冠と人の形で構成された文字です。老冠は年長いた人が髪を長く垂らしている様子を象っていて、人を加えて老いた人を表しています。漢点字では、「𪛗」で表されます。漢点字符号「𪛗」は、老冠を表します。

例… 孝 者 耆

熟語… (老人) (元老)

(27) 考 コウ かんがえる

老の近似文字です。老冠の右下に、考えを巡らすという意味の形が置かれた文字です。もとは「なきち」を意味しました。漢点字では、「𪛗」で表されます。

熟語… (思考) (考察)

* 漢点字符号「𪛗」は、「戸、尸、老冠」を表します。

(28) 衣 イ エ きぬ ころも

人が衣服を身につけた形を象った文字です。衣偏などとして衣服や着衣した状態を表す文字を構成しま

す。漢点字では、「𪛗」で表されます。「𪛗」は、衣偏を表す漢点字符号です。

例… 初 複 製 袋 裏
熟語… 服 (衣服) 法 (法衣)

* 漢点字符号「𪛗」は、「示偏、衣偏」を表します。

(29) 米 ベイ マイ こめ

実った稲穂を象った文字です。現在では主食の米を表します。漢点字では、「𪛗」で表されます。

例… 粧 精 断 齒 隣
熟語… (米飯) (米国)

* 漢点字符号「𪛗」は、「禾(ノ木)、米」を表します。何れも穀物の実りを表す文字です。

(30) 延 エン のばす のびる

長く伸びた道を表す文字です。時間が延びる、期限に遅れるという意味を表します。漢点字では、「𪛗」で表されます。漢点字符号「𪛗」は、𠂔(えんによろ)を表します。

例… 廻 建 延

熟語… 𠄎𠄎𠄎期 (延期) 遲 𠄎𠄎𠄎 (遅延)

(31) 𠄎𠄎𠄎支 シ ささえる

手で木の枝を持つ形を象った文字です。木の枝を持つて幹を支えることを表します。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。

例… 𠄎𠄎𠄎岐 𠄎𠄎𠄎技 𠄎𠄎𠄎鼓 𠄎𠄎𠄎枝 𠄎𠄎𠄎肢

熟語… 𠄎𠄎𠄎 (支持) 𠄎𠄎𠄎 (支店)

(32) 𠄎𠄎𠄎遊 ユウ ユ あそぶ

しんのように風になびく旗を象った文字です。旗がゆったり揺れるように、ゆっくり動き回ることを表します。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。「𠄎𠄎𠄎」は、二つ目のしんのようにして用いられます。

例… 𠄎𠄎𠄎運 𠄎𠄎𠄎巡 𠄎𠄎𠄎遷 𠄎𠄎𠄎通 𠄎𠄎𠄎隣

熟語… 𠄎𠄎𠄎 (遊学) 𠄎𠄎𠄎興 (遊興)

* 漢点文字符号「𠄎𠄎𠄎」は、「走、互、支、しんによろ」を表します。しんによろを含む文字は沢山ありますので、糸偏・言偏・人偏・さんずいと同様、二つ用意しました。「𠄎𠄎𠄎」を第一しんによろ、「𠄎𠄎𠄎」を第二しんによろと呼びます。

(33) 𠄎𠄎𠄎舟 シュウ ふね

丸木船を象った文字です。舟は、当初は大木を割り抜いた丸木船でした。後に板を貼り合わせて作られるようになって、航海できる大きな船が造られるようになりました。また、盤はものを入れて運ぶもので、木を削って作られました。この文字は盤の意味も表します。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。「𠄎𠄎𠄎」は、舟偏を表します。

例… 𠄎𠄎𠄎船 𠄎𠄎𠄎舶 𠄎𠄎𠄎艦 𠄎𠄎𠄎航 𠄎𠄎𠄎般

熟語… 𠄎𠄎𠄎船 (舟船) 𠄎𠄎𠄎艇 (舟艇)

(34) 𠄎𠄎𠄎丹 タン あかいに

舟の近似文字です。赤い色の顔料を掘り出す井戸を象った文字です。薬剤にも用いられたので、薬や真心を意味して用いられます。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎」で表されます。

熟語… 𠄎𠄎𠄎 (万金丹) 𠄎𠄎𠄎念 (丹念)

青 𠄎𠄎𠄎よし (青丹よし)

* 漢点文字符号「𠄎𠄎𠄎」は、「女偏、舟偏」として用いられます。

(35) 王 オウ

首領のシンボルを象った文字です。国を統治する国王を表します。漢点字では、「𠄎」で表されます。部首としては、玉の略体として用いられます。

例… 𠄎環 𠄎現 𠄎珠 𠄎珍 𠄎球

熟語… 𠄎(国王) 𠄎室(王室)

(36) 将 ショウ

神に戦勝祈願の祈りを捧げる様子を象った文字です。その軍を率いる将軍を示すようになって、「ひきいる、まさに」の意味を表すようになりました。漢点字では、「𠄎」で表されます。「𠄎」は、月(しゅうへん)を表します。

例… 𠄎状 𠄎壮 𠄎牆

熟語… 𠄎(將軍) 𠄎(大將)

(37) 主 シュ

油皿の灯心が燃えている様子を象った文字です。現在の文字は、油皿の下に台が置かれている形です。灯火を守るのは首長の役割であることから、「ぬし、あるじ、おもに」と訓読されます。漢点字では、

「𠄎」で表されます。

例… 𠄎往 𠄎住 𠄎柱 𠄎注 𠄎駐

熟語… 𠄎演(主演) 𠄎公(主人公)

* 漢点字符号「𠄎」は、「玉、王、将、月(しゅうへん)、主」を表します。

(38) 夕 セキ ユウ

残照の東の空に昇る三日月を象っていて、夕刻を意味する文字です。漢点字では、「𠄎」で表されます。

例… 𠄎多 𠄎名 𠄎汐

熟語… 𠄎朝 𠄎(一朝一夕) 𠄎か

り(夕明かり)

(39) 死 シ シメ

死者を象った文字です。漢点字では、「𠄎」で表します。「𠄎」は、歹(がつへん)を表して、死にまつわる意味の文字を形成します。

例… 𠄎残 𠄎殊 𠄎殉 𠄎殖

* 漢点字符号「𠄎」は、「方、夕、歹」を表します。

(40) 立 リツ リユウ たつ たてる
 立った人を正面から見た形を象った文字です。立っている人から「たつ、たてる」という訓読を、また立っているところからその位置を表します。漢点字では、「𠂔𠂔𠂔𠂔」で表されます。

例… 𠂔𠂔位 𠂔𠂔泣 𠂔𠂔端 𠂔𠂔翌
 熟語… 𠂔𠂔脚 (立脚) 設 𠂔𠂔 (設立)

(41) 身 シン み みずから
 妊娠している女性を横から見た形を象った文字です。後に人の身体を意味するようになりました。漢点字では、「𠂔𠂔𠂔𠂔」で表されます。「𠂔𠂔」は、身偏を表します。

例… 𠂔𠂔窮 𠂔𠂔射
 熟語… 𠂔𠂔 (身体) 𠂔𠂔 (心身)

* 漢点文字符号「𠂔𠂔」は、「石、立」を表します。

(42) 足 ソク あし たりる たす
 膝から先の足を象った文字です。「あし」を意味するとともに、物や心が満たされること、補って満たす

ことを意味します。漢点字では、「𠂔𠂔𠂔𠂔」で表されます。「𠂔𠂔」は、足偏を表します。

例… 𠂔𠂔距 𠂔𠂔踐 𠂔𠂔促 𠂔𠂔踊 𠂔𠂔路
 熟語… 満 𠂔𠂔 (満足) 𠂔𠂔引の (足引の)

* 漢点文字符号「𠂔𠂔」は、「耳偏、身偏、足偏」を表します。

(43) 虫 チュウ むし

むし(蛇)を象った文字です。現在では昆虫や蜘蛛などの甲殻類、みみずやひるなどの環形動物など、幅広く用いられます。漢点字では、「𠂔𠂔𠂔𠂔」で表されます。「𠂔𠂔」は虫偏を表して、虫・爬虫類・両生類・水性甲殻類・貝などの名前に用いられます。

例… 𠂔𠂔蟻 𠂔𠂔蛾 𠂔𠂔触 𠂔𠂔蝕 𠂔𠂔独
 熟語… 獅 𠂔𠂔 の 𠂔𠂔 (獅子身中の虫)

(44) 羽 ウ はね は

鳥の羽を二枚並べた形を象った文字です。漢点字では、「𠂔𠂔𠂔𠂔」で表されます。

例… 𠂔𠂔習 𠂔𠂔扇 𠂔𠂔翻 𠂔𠂔翼 𠂔𠂔翌
 熟語… 𠂔𠂔 (羽化) 𠂔𠂔 (羽衣)

* 漢点字符号「𠬞」は、「車偏、虫偏、羽」を表します。

(45)

●●●●
●●●●
||●●
|||●
自

ジ

み
ず
か
ら

顔の真ん中にある鼻を象った文字です。自分自身を意味します。また、「自…、至…」と書いて、「…より、…まで」の意味で用いられます。漢点字では、「𠄎」で表されます。

（自身）
熟語
（自立）
（自分）

(46)

●●●●
●●●●
|||●
|||●
気

キ

ケ

雲の流れる様子を象った文字です。「キ」は、人が呼吸して得る、生きるための根源的な力と考えられました。漢点字では、「𐀓𐀔𐀕」で表されます。「𐀖」は、気（きがまえ）を表します。

[illegible]

(47)

●●●●
●●●●
|●||
|||●

包

ホウ

つつむ

子を宿した腹を横から見たところを象った文字で
子を宿して育むところから、「つつむ」と訓読さ
す。

「」を表します。

(50) 山 サン セン やま

峰々が連なった姿を象った文字です。一つの高い山が聳えているのではなく、山々が連なっている形を表します。漢点字では、「」で表されます。

例… 岳 岩 炭 嵐

熟語… (山河) (山川草木)

木)

(51) 矢 シ や

矢を象った文字です。誓うを立てるときに矢を折りました。そこで「ちかう」という意味で用いられます。漢点字では、「」で表されます。

例… 医 矩 侯 短 知

熟語… (矢羽) 弓 (弓矢)

* 漢点字符号「」は、「病だれ、山、矢」を表します。

(52) 弓 キュウ ゆみ

弓を象った文字です。弓なりに弧を描いて曲がった形を表しています。漢点字では、「」で表されます。「」は、弓偏を表します。

例… 引 強 弦 弧 弱
熟語… 道 (弓道) (弓矢)

(53) 引 イン ひく

弓の近似文字です。弓の弦を引く形を象っています。「ひく」とは、弓を引くばかりでなく、引き寄せること全般に用いられます。漢点字では、「」で表されます。

熟語… (万有引力)

(字引き)

* 漢点字符号「」は、「彳、行構え、弓偏」を表します。

(54) 原 ゲン はら

崖の割れ目から泉が湧いている様子を象った文字です。水源を意味します。漢点字では、「」で表されます。「」は、厂(がんだれ)を表します。厂は、切り立った崖を意味します。

例… 圧 灰 厄

熟語… (原因) 野 (原野)

* 漢点字符号「」は、「厂、厂」を表します。

(55) 𠄎今 コン キン いま

器や壺の蓋を象った文字です。現在では「いま」と、時を表す文字に変わりました。漢点字では、

「𠄎」で表されます。

例… 𠄎含 𠄎吟 𠄎念 𠄎食

熟語… 𠄎昔 (今昔) 𠄎集 (古今集)

(56) 𠄎白 ハク ビヤク しろい

白い頭蓋骨を象った文字です。頭蓋骨には霊が宿ると信じられて、大切にされました。漢点字では、

「𠄎」で表されます。

例… 𠄎皆 𠄎皇 𠄎伯 𠄎拍 𠄎泊

熟語… 𠄎 (白衣) 𠄎腕 (腕白)

(57) 𠄎旧 キュウ ふるい

白の近似文字です。鳥を捕まえる罌を象った文字と言われます。音が久に通じて、「ひさしい、ふるい」という意味に用いられます。漢点字では、

「𠄎」で表されます。

熟語… 𠄎曆 (旧曆) 𠄎道 (旧東海道)

す。

(58) 𠄎桜 オウ さくら

花のさくらを表す文字です。わが国では古くから親しまれている花です。現在では国花になっています。

漢点字では、「𠄎」で表されます。

熟語… 𠄎 (桜花) 𠄎桃 (桜桃)

(59) 𠄎菊 キク きく

秋に咲く花の代表の菊を表す文字です。菊は、わが国の皇室の紋章です。漢点字では、「𠄎」で表されます。

す。

熟語… 𠄎 (菊花) 𠄎形 (菊人形)

* 漢点字では「𠄎」の符号によって、木の名・草の名・竹の名を構成する木偏・草冠・竹冠を表します。

例… 𠄎松 𠄎杉 𠄎蓬 𠄎藍 𠄎笹

(60) 𠄎我 ガ われ わ

一人称の代名詞「われ」を表す文字です。自分のこと、自分の所有になることを意味します。漢点字では、「𠄎」で表されます。「𠄎」は、戈構え、

* 漢点字符号「𠄎」は、「日、白」を表しま

例
..
|●●●|
●●●|
●●●|
●●●|
餓
●●●|
●●●|
●●●|
●●●|
蛾
|●●●|
●●●|
●●●|
●●●|
義

熟語
●●●
|||●
執
(我執)

●●●
|||●
が
||●●
(我が家)

(61)  或 ワク ある あるいは

(62)

式

シキ

シヨク

例
..
●●||
|●||
●●||
●●||
試
●●●●
|●●|
|●||
|●||
●●||
●●||
拭
●●||
●●||
●●||
●●||
武
|||●
●●||
●●||
●●||
代

熟語 ..

|||●
|●●

●||●
|||●

●||●
●||●

●●||
|||●

●●||
|||●

(入学式)

●●||●
●●||●

程 ●●||
|||●

(方程)

(63)

用 ヨウ もちいる

神に捧げられる家畜を飼うための柵を象った文字です。神に捧げることを「もちいる」と言いました。現

在では道具や手段を使う、あるいは人を雇って働かせるなどの意味を表します。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎𠄎」で表されます。「𠄎𠄎」は、𠄎（えんがまえ）を表します。

例
..
●● | ●
●● | |
| ● | |
● | ●●
向
●● | ●
●● | |
●● | |
| ●●●
同
●● | ●
●● | |
● | | |
● | ●●
岡

熟語
..
●●●
●●●
●●●
●●●
●●●
●●●

(用意)

●●●
●●●
の
●●●
●●●
●●●
●●●

(火の用)

(64)  角 カク つの かど すみ

用の近似文字です。獣のつのを象つて、ものの角張ったところを意味します。漢点字では、「𪛗」で表されます。

例
..
●● | ●
●● | |
| ● | |
●●●●
解
●● | ●
●● | |
● | ● |
●●●●
触

熟語
● ●
||| ●
● ● ||
||| ●
● ● ●
● ● ●
● ● ||
● ● ||
形 (三角形)
||| ●
● ● ●
||| ●
● ● ●
● ● ||
||| ●
||| ●
形 (牛角)

* 漢点字符号「」は、「口、戈、弋、」を表します。

(65)

欠

ケツ

か

ける

人が口を開けて欠伸をしているところを象った文字です。欠けて満足でない、不十分であるという意味を表します。漢点字では、「𠄎𠄎𠄎𠄎」で表されます。

例
・ ・
●●●●
●●●●
飲
●●●●
●●●●
●●●●
歐
●●●●
●●●●
●●●●
歌
●●●●
●●●●
●●●●
欺
●●●●
●●●●
●●●●
次

熟語 ..
 ●●●●
 ●●●●
 ●●●●
 損 (欠損)
 ●●●●
 ●●●●
 ●●●●
 席 (欠席)

点字から識字までの距離（八十三）

南相馬への支援（二）

山内 薫（墨田区立あずま図書館）

七月二一日の夕方、あずま図書館の私の元に電話がかかってきた。

「Wですが、覚えていますか？」

三十年近く会うことのなかったWさんだが、すぐに名前も顔も浮かんできた。昔、江東ブロック図書館協議会児童部会という集まりがあつて、一緒に調査を行ったり、東京の図書館の集会で共に事例発表を行ったことが思い起こされた。

江東地区の図書館には、江東ブロック図書館協議会（足立区、江戸川区、葛飾区、江東区、墨田区の五区）という組織がかつて存在し、研究協議を重ねてきた伝統がある。この協議会は館長組織ではなく、図書館職員による組織として一九六四年に発足し、貸出、調査、協力という部会が活動していたが、一九七三年に四番目の部会として児童部会が作られたのだった。各区の図書館から児童サービスの担当者が集まり、当初は江東ブロック内の図書館の実態調査を行った。この実態調査の分析と検討を三年がかりで終えた後、一九七七年には当時江東ブロックにあつた一八館で図書

館に来館する子どもたちを対象にしたアンケート調査を行った。一週間のアンケート期間であつたが、七千近い回答が寄せられ、その結果と分析を「子ども・本・としよかん」という報告書にまとめた。このアンケートをまとめる際に一緒に活動したのが当時葛飾区に勤務していたWさんだった。

Wさんは今回の東日本大震災で被災した南相馬市にボランティア活動で出かけているときに、元南相馬市の図書館員Hさんと出会い、Hさんとの話の中で私のことが話題になったという。Hさんとは東北で開かれる図書館関係の集会で何度かお目にかかつて話をしたことがあり、たまたま図書館の話の中で私の名前が出たとのこと。それで電話を下さつたのだった。

南相馬市の図書館が休館中の中「現地で絵本の読み聞かせを二回行いました。一回目は福祉施設に通っている子どもたちに対して。二回目は隣の相馬市の図書館の児童室にて。一回目の子どもたちは次の日施設で面会したとみんなに言ってくれたそうです。福祉施設での読み聞かせはこれで大丈夫そうです。二回目は子どもたちは拍手をしてくれましたが、図書館員からは「静かに読んでください」と読んでいる途中に注意を受けました。前日から許可を得ていたのにもかかわらず、途中で邪魔されたのが残念でした。たぶんここではもう読ませてもらえないと思います。（読んだ本Ⅱ

持っていった本。さんびきのやぎのらがらどん・ノタンおねしよでしよん・おおきなかぶ・ぐりとぐら・だいくとおにろく。一度には多すぎますが調査ということで5冊全てを読みました。」

彼がボランティアで行っている地域では、放射能の影響で子どもたちはバスで学校へ登下校しており、家に帰ってきても外で遊ぶことを禁止されている状況で、母親たちも子どもたちを安全な地域に避難させてあげられないという負い目を強く感じており、そうした母親の話し相手にもなっているという。話の中で日本ユニセフ協会が行っている被災地に子どもの本を送る活動「ちっちゃな図書館」のことなどを話すと、仮設住宅などに絵本を送ってもらえないかという要望を受けた。実は今回の大震災の被災地、石巻と東松島に、それぞれ知り合いの図書館員と元図書館員がおり、連絡を取って避難所になっている小学校など十カ所あまりに四月始め、「ちっちゃな図書館」の活動を通して子どもの本を五十冊単位で送って頂いたのだった。

早速、日本ユニセフ協会との仲介役をして下さったJBBY（日本国際児童図書評議会）のKさんに連絡を取って支援を要請した。Kさんからはすぐに次のようなメールを頂いた。

「ぜひ応援したいです。ユニセフはもちろんだいじょ

うぶでしようが（確認します）、周辺では他にもいろんな支援がありますので、あわせて考えていきましよう。」

Wさんのメールアドレスを伺って私が出したメールに最初に頂いた返信には次のように記されていた。

「早速のお手配ありがとうございます。私の現地の状況から受けた印象から言うと、まずは出来たら読み聞かせに適している絵本が希望です。その後、子どもたちが自主的に集まって来たら、幼年童話、その後、ケストナーの本などが必要となるでしょうが。一度のはなく、継続した援助が見捨てられていない気持ちと勇気をくれます。私がしようとしている絵本の読み聞かせは、子どもだけが対象ではなくその親もまた対象にしたいと思っています。また本と子どもをつなぐと言うことはもちろん願いますが、放射能が撒き散らされる中で、子どもを育てざるを得ない、親への相談や援助の糸口を作りたいということも願っています。昨日も電話でお話をしましたように、親は、放射能放出下で子どもを育てざるを得ないことで、まずは子どもにすまないと思っていて、そういう自分を情けなく思っていて、自由に外で遊ばせることが出来ない中エネルギーが発散出来ない子どもが、仮設住宅の薄い壁の部屋の中で騒ぐことに周りの方にすまないと思っ

て生活されています。その親、多くは母親、への援助や

相談の糸口に子どもたちへの読み聞かせを利用したいというのが現在の私の偽らざる気持ちなのです。もちろん子どもたちに絵本を読むことはワクワクする面白さですが。」

また次のようなメールも届いた。

「現地で私の感想を言わせてもらおうと、セットとして送るより、途切れなく、例えば「こどものとも」や「かがくのとも」が毎月送られるように送っていただけるのが良いのではと思います。東京でストックしていても結構なので。はじめに読み聞かせに良い絵本を十冊程度セレクトして送っていただくと助かります。私として入れてほしいもの（好みと取っていただいても良いです）。ぐりとぐら、さんびきのやきのがらがらどん、じごくのそうべい、しばてん、ふきまんぶく、だいくとおにろく、ながいはなしこしがへがな、いないいないばあ、もうねんね、ノントンのおねしょでしょん、ノントンボールまでまで、ノントンの誕生日（ノントンシリーズはこの三冊以外は好きではないです）、てぶくろ、おおきなかぶ、ぽっぽーよぎしゃ、やこうれつしゃ、トリゴラス（トリゴラスはひねってはいませんが、読んで、被災を受けた子どもたちがどういう反応を起こすのか見てみたい感じがします。慎重の上慎重に行いますが。怖いので、結局並べただけで、しばらくは読み聞かせしないかも知れませ

んが）、幼年童話として、ふとん海水浴、もりのへなそうーる、限られたスペースなので上記の本と同等の優れた絵本が10冊でいい欲しいです。少ない本を何回も何回もかわるがわる見る中で本が子どもや親の中で力を持つてくるという感じを私は持っています。たぶん最初に送られてくる本が20冊だと多すぎる感じだと思います。何を読むか迷うというのでは多すぎるのだと思うのです。上記のリストもどきは現在の絵本の状況は知らず、三十年ほど前の記憶から、調べもせずに頭に浮かぶものを書いていきます。選書に力を入れてくれると助かります。その後一ヶ月に二、三冊ずつ定期的に送っていただけると子どもたちや親たちが「今月くるのは何だろう」と楽しみが出来ます。その生活の小さな楽しみが生きていく上で必要だと思うのです。自死を止める力があるのかも知れませんが。南相馬では原発建家が吹き飛んだあと、いっさい品物が入ってこず、商店が在庫を全て売り払ったあとは、商店は閉められ、二時間ぐらいかかる福島や、二本松、郡山に車で買物に行くにもガソリンもなくという状態が約三週間続いたとのこと。自衛隊にガソリンを分けてほしいと頼んでも指揮系列が違っていると断られたと言っておられました。ですから、市民の中にはたぶん見捨てられたという思いがあると思います。ある医師は「南相馬は見殺しにされた」「報道も自主規制で人間が住んでい

るのに入ってこなかった」「このことを全国の人に伝えてほしい」涙を浮かべ怒りながら訴えていました。ですから一時期に多量の本が送られることではなく、十冊ぐらいから初めて、月に一回何冊かそれが増えていくという喜びは、見捨てられていないという信頼や、生きていくという希望につながり、優れた本の楽しさと相まって、子どもたちが本が大好きになるきっかけとなるのだと信じています。どうかセットではなくKさんや山内さんの仮設住宅で暮らす、母と子への読み聞かせに適切な「この十冊」という選書をお願いします。つまり選書にこもるメッセージが欲しいのです。」

「ちっちゃな図書館」の支援は一度送ったら一応それで終了ということになるのだろうが、継続して絵本を送り続けること、その中にメッセージ性を含ませることを求められ、いわゆる義援金などの支援とは質の異なる支援が求められていることを強く感じるのだった。

そこで現在ある仮設住宅群十二カ所。八月十五日までに開設予定が六カ所の計十八カ所に十冊ずつ計百八十冊をセットにして原町保健センター主任保健師のOさん宛に送ることになった。今回の本の発送に関しては日本ユニセフ協会の「ちっちゃな図書館」からではなくJBBYから送る手配が進められている。JBB

YのKさんからWさん宛のメールには次のよう内容が記されている。

「〇このたびは、現地の状況やニーズを、届けていただき本当にありがとうございます。本をそろえ支援しますと声を上げることは簡単でも、現地の人の気持ちに沿った必要に応じた支援をすることは、本当に難しいことです。そこをつなぐ人の存在がどんなに貴重なことか。Wさん、山内さんのお力があってこそです。ありがとうございます。今後も、本を用意し、お送りすることが私の役目、それを私にさせてください。今後この子どもたちを、本を通じて長く支援できたら幸いです。」

〇今、送付の準備にはいつていますが、購入本の調達、仕分けの箱や袋（今新しく調達しています）、発送作業、急いではおりますが、これらは仕事の合間に行いますので、もしかしたら、八月七日には間に合わないかもしれません。その場合は、お許しください。

（八月七日は次にWさんが現地にボランティアで行く日にち）

〇昨日、保健センターに健診にくる子どもたちのための本は赤ちゃん絵本を中心に20冊ほどお送りしました。これはすぐに準備があったので。十ヶ月・一歳半・三歳などの健診を保健センターは行っています。今

『横浜通信』100号記念特集

「横浜通信」第100号に寄せて

岡田 健嗣



半分ぐらいの受診率になっているようですが、私は同業者として、まだ半数近い子どもたちがそのままこの地にいることの方に正直驚きました。その背景に、Wさんがお伝えくださったような状況があるんですね。○このような災害の支援は、みなが初めてです（最後までありたいと思います）。どんな本がよいのかも手探りで。だから、そこに専門家はだれもいないとおもいます。現地の子どもたちの様子が何よりの答えだと思います。みなで探り、知恵を出し合ってやっていければと願います。」

Wさんからのメールには次のような状況が記されている。

「私の感じでは今後一旦逃げた人々が仮説住宅の建設で帰ってきます。七万人から一万人へ。いま三万五千人を超えました。六万人ぐらいまで回復するかも知れません。そうなれば、乳幼児はもつと増えてくると思います。」

今後本当に息の長い支援が必要とされている。その後の経緯を次号でもお伝え出来ればと思っている。

（本来は「盲学校・ろう学校生のインターンシップ」の七回目を書く予定でしたが、緊急の課題でもあり、今の福島状況を少しでも皆様に知って頂きたく、急遽南相馬への支援について書かせて頂きました。引用等をお許し頂いた、WさんとKさんに感謝します。）

当会が隔月に発行して参りました漢点字誌『横浜通信』が、この七月号で、通巻一〇〇号を迎えました。読者の代表として木村多恵子さんに筆を執っていただき、主催者として岡田も、一筆したためました。

本誌『横浜通信』は、今号で100号を迎えました。

本誌は、横浜漢点字羽化の会の発足に1年ほど先だって、創刊されました。創刊に当たってどんな冊子にするか、現在も本会の活動の中核を担って下さっている吉田信子さんと、繰り返し意見を交わしました。そこで得た結論は、現在も本会の活動のコンセプトともなっています。

また本誌は、現在本会で使用している漢点字変換プログラムEIBRKWの前身であるEIBRが、最初

に手がけた冊子でもあります。その後パソコンも、MS・DOSからWINDOWSへと基本ソフトが変化して、変換プログラムも現在のEIBRKWに至りました。本会の活動はこのように、会員による入力・校正・編集という編集者の担当分野と、プログラムの開発・印刷機材の保守・点検という、言わば印刷者の担当分野を、会員の力で維持し、動かし続けているものです。

本誌の編集方針はと言えば、誠に原則的な三つの柱にあります。一つは、漢点字の資料そのものが少ないところから、読者に漢点字で読むことを経験してもらうことを期して、知識欲に応えられる資料を選ぶこと。二つは、できるだけ短い文章を選ぶこと、これは触読の困難さを考慮してのことです。三つは、文字・言語・文章に関わる基本的な資料を選ぶこと、これはこれまでの視覚障害者が、あまりにもそのような資料に恵まれずに置かれて来たことによりです。

お気づきのように本誌は、オリジナルではありません。多くの新聞・雑誌・単行本の中から、これらの原則に沿った記事を選び出して、編集し、掲載しています。これまでの点字の雑誌と例えば、内容はおおよそオリジナルでした。勿論それはそれ相応の意味があり

ます。しかしそれは、勢い一般から離れたものにもなりがちでした。「盲界誌」と呼ばれるものです。本会の活動は、漢点字を一般の文字に匹敵する触読文字と位置づけています。そうであれば、どうしても「盲界誌」になつてはいけない、そう考えました。

横浜漢点字羽化の会は一九九六年に発足しました。それまでは不定期に発行していた本誌も、会員の充実を機に、隔月・年六回の定期刊行物としました。

このように100号を迎えられたということは、取りも直さず読者諸兄弟姉のご支援があつてのことです。毎号楽しみにして下さいますことに、心より感謝申し上げます。

また、編集と打ち出し・製本・発送を担当して下さいている会員の皆様、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

2011年7月15日

「横浜通信」100号

ありがとうございます

木村 多恵子

「横浜通信」を読ませていただき始めたのはいつの

ころでしたか。創刊号からでなかったのは覚えているのです。岡田様からお誘いを受けましたのに、よんどころない事情がありまして、ご辞退してしまいました。今思いますと残念なことをいたしました。

横浜羽化の皆様が、わたしたちのためにお忙しい日々の中、どんな記事がよいか、楽しくてしかもちよつとがんばらなければ読めないもの、つまりどの号も保存して置きたくなるようなものと、編集なさっているのだと思います。その努力の結果、100号まで途切れなかったのです。

記事と記事の間に俳句や歌を埋め草として、新たな内容に入りやすく構成されているのもうれしいです。わたしは「読めそうで読めない漢字2000」と、「ちよつと使えるお天気知識」を楽しみにしています。前者の中の〈例題〉を正しく回答できるか試みています。

何といつても 寺山修二の「ダイヤモンド」の一編の詩は、夫を送った直後に与えられた、忘れたたい特別な詩になりました。あの詩を読んだとき、「漢点字で読めてよかった」とあれほどありがたいと思ったことはありません。

どうぞこれからもよい読み物を見つけてください。そしていつまでも続けてください。

「東京漢点字羽化の会」例会・講習会報告と

わたくし」と

木村 多恵子

第67回例会 2011年6月8日(水)13:30

15:30、場所、ヒューマンプラザ7階第2会議室

6月18日の『朝日「花をひろう」』の点字印刷をしに、横浜へ行つてくださる方をお二人決めていただいた。

朝日「花をひろう」の入力、校正のグループを確認した。

繰り返し記号について―漢字の繰り返し記号、平仮名の繰り返し、片仮名の繰り返し平仮名、片仮名の繰り返しに濁点がついたもの、それぞれの記号が、漢点字にも用意されているので、その説明を岡田さんがした。

漢文の訓点について―レ点、返り点、など、漢文に必要な表記についても岡田さんが説明した。

古語辞典について―古語辞典に韓国語の発音記号のようなものが表記されており、これは、韓国語発音記号とすると、点字の韓国語ではどう表しているか、も

う少し検討することにした。

古語辞典の入力は、原本を各自少しずつ持ち帰り、グループを作って各自が入力したものを第4校正まで行うことにした。

寺山修司の歌集は入力はほぼ終えているようである。

第68回例会 2011年7月6日(水) 13:30

15:30、場所、ヒューマンプラザ7階第1会議室

「羽化86号」もお配りした。

「花をひろう」の入力担当を決めた。

7月20日に横浜へ点字印刷に行っていたく方をお二人決めていただいた。

「古語辞典」の入力方法について、細かいところまで岡田さんが丁寧に、皆様からのご質問に対して、具体的に説明した。

「古語辞典」の校正の総纏めを統一していただくために、最終チェックをSさんにしていただくことにし、早速活動がはじめられた。

「古語辞典」の入力する原本を、それぞれ持ち帰られた。

皆様ありがとうございます。どうぞよろしく願います。

いたします。

* 予告

8月の例会、(第69回)、2011年8月10日(水)、13:30～15:30、ヒューマンプラザ7階竹芝小ホール

第51回学習会、2011年8月20日(土)、17:00～18:30、ヒューマンプラザ7階第1会議室。終了後暑氣払いの予定。

9月の例会、(第70回)、2011年9月7日(水)、13:30～15:30、ヒューマンプラザ7階竹芝小ホール

第52回学習会、2011年9月10日(土)、18:30～20:30、ヒューマンプラザ7階第1会議室

10月の例会、(第71回)、2011年10月12日(水)、13:30～15:30、ヒューマンプラザ7階竹芝小ホール

第53回学習会、2011年10月22日(土)、ヒューマンプラザ7階第1会議室

わたくしごと

わたしが小学校2、3年のころのことである。上級生のお姉さん方が、竹の編み棒二本、あるいは四本を

使つて、毛糸の編み物をしているのが羨ましかった。最上級生の中にはカーディガンを編んでいる人もいた。「教えて」と頼んでも、誰もいい返事はせず、「四年生になったら習えるわよ」とにべもない。他のことはともかく、編み物を習いたいばかりに早く四年生になりたいと思った。

あるとき、一人の上級生が新しい毛糸を買つてきて、「編み物やりたい？」とわたしに聞いた。もちろん「はい！」というと、「それなら編み物を始める大事な最初のことをやってみる？」という。「はい！」とわたしは続けた。こうして彼女は、わたしが思いもかけないことをはじめた。「さあ両手を広げて前に出して。編み物をするための大事な準備よ。わたしのお手伝いね」といつてわたしの両手に大きな毛糸の輪を掛け、その輪の糸口を探し出して、クルクルと毛糸の手鞠を作り始めた。最初は手を動かさずにいたわたしだったが、糸がほぐれてゆく自然な動きに合せて両手をソロリソロリと動かして、玉を作りやすいように左右に小さな弧を描くように動かした。「そうそう、うまいうまい、だんだん巻きやすくなつたわ。じょうずじょうず」と褒められてうれしくなつた。ふわふわの手まりを見せていただいたとき、「玉を作るのは難しい？」と聞くと、「そうねえ、巻き方によつては、

毛糸が堅くなつちゃうの。糸が死んじゃわないように柔らかく、ふわつと巻くのは、慣れるまで大変ね。あんまり柔らかすぎると、毛糸の玉が崩れて、編むときに、自然にほぐれていかないで、柔らかく巻きすぎたところがバサつと糸が束になつて外れちゃうの、これはとっても編み辛いし、失敗すると毛糸が絡まつてしまふの。毛糸がすんなりほぐれると、編み目が平均して柔らかくきれいに編めるの」、「わたしもいつか手まりを作る？」「そうね、いつかきつとやれるようになるわ。糸かけがじょうずになつて、本当に編み物がやれるようになったら、玉の堅さがどんなに大分分かるからね」と言つた。

この後彼女は、実際の編み方についてはなんにも教えてはくれなかったが、なにをするにも下準備が必要だということを教えてくれた。

こうしてわたしの糸かけは上級生たちに重宝がられるようになった。

夏休みに入つて、寮から家に帰り、母に、糸かけをしていることを話すと、母が「じゃあお母さんの手伝いもしてくれる？」という。「え？お母さんも編み物するの？」とわたしは驚いて言つた。すると「編み物はいらないけれど、縫い物をするのに糸を巻きたいの」という。早速木綿糸を手には掛けると、毛糸より輪の大

きさが小さく、わたしの手の広げ加減は楽だった。だが毛糸と違って木綿糸はなかなか減っていかない。それでもとうとう母は、ボール紙の糸巻きにほどよく巻き取って、まだ半分近く残っている縹（かせ）をわたしの手から外して「ありがとう、とつても助かったわ」といった。「お母さん、何時もは誰が糸かけをしているの？」と姉や兄たちのことを思い浮かべながら聞くと、「わたしは息を飲んだ。びつくりするとこんな風に息ができないのだという経験をしたのもこのときが初めてだったと思う。両手を左右に小さな輪をかくようにするだけでも大変なのに、その輪を足に掛けて自分で糸を巻く。「何時も誰もいないときにやるからね」と母は当然のように言ったが、それだけ、「ありがとう助かったわ」の言葉から、その苦勞がわたしにも分かった。「お母さん、これからわたしは糸かけをするから、わたしがお休みになつて帰つて来るのを待つていてね」。それがやつと母をねぎらえる言葉だった。「そうするわ」と母は言ったが、後で考えれば、年に、春、夏、冬休みしか帰らないわたしを待つているだけでは足りなかったのだが、子供のわたしは母を喜ばせることができた満足感で一杯だった。

今日ではほとんど縹になった糸は減つて、機械でき

れいに巻かれた、手まり型ではない巻き方の束の中心から糸口を引き出して、編みはじめられるように作られているが、当時は木綿糸も毛糸も、ほとんどこんな風に糸は縹になっていた。わたしが知っているのはその当時も、絹糸はボール紙の糸巻きに巻かれて売っていた。

編み物の手ほどの序章はこんな形ではじまった。

さて、実際の編み物なのだが、どんなに上級生たちに頼んでも、うんとは言ってくれなかった。何度も頼むわたしにあきれて一人が、「じゃあ内緒よ、最初の目の作り方を教えてあげる」と言つて二本の竹針と彼女の余り糸を分けてくれて、毛糸の編み出しの「目」の作り方を教えてくれた。

二本の編み針を一本のように揃えて作つた「目」は、すぐ編み針に一杯になった。

すると、「作つた目の数を数えなさい。これは編み物をするのにとても大切なことだからね」と言われた。この「目」を数えるのは、作り目がきつくて動き辛く苦勞した。一本だけ棒を抜くと、「目」は動いて数えやすくなった。

今度は「目」が掛かっている棒を左手に持ち、空っぽの棒を右に持つて、左の棒から右の棒へ一目ずつ移しなさい」という。

これは一本の棒に掛かっている目の輪の手前から、右手の棒をさして、一目ずつ右手の棒に移していくのだ。

次は、「棒から目を外して、その目を壊さないように、糸を捻（ねじ）らないように気をつけて拾って、元通りに掛けなさい、目を解いて新しく目を作ってはだめよ、最初は一目で練習、次は二目というようにやってごらんなさい。これは編んでいるときに、目を落としてしまったときに、その目を拾えるようにするためだからね」と言われた。実際にこれは難題だった。拾った目を見てもらうと、いつも糸がねじれていると言われる。何度も挑戦したが、悲鳴をあげた。外した目をそっくりきれいに拾うのは難しく、新しく全部目を作り直して何度も繰り返したが、合格はとうとうできなかつた。

「これができるのはとても難しいけれど、実際に編んでいけば、作り目を拾うよりはずっと楽に拾えるようになるから心配しなくて大丈夫、ただそれだけ大変だから、編むときは目を落とさないように気をつけること」としつかり忠告された。

4年生の最初の編み物の時間はワクワク！もちろん「目」の作り方を知っているとは言えない。でも目の作り方は「よくわかるわね、上手」と編み物の先生に

言われてすんなりクリアー。第一目は表編みを教わった。これは意外に分かりやすかつた。左手に持つ棒の目の輪に、右手の棒の先を入れて糸を掛けて、その輪の中から、掛けた糸を引き抜いて右の棒に移すのである。なんだかドキドキする喜び。

週一度の授業なので、表編みだけのガーター編みは、40目のものが20センチくらい編み上がって次ぎの週に持つてゆくことができた。

次は滑り目を教わり、表編みと滑り目を交互に編むと袋編みになることを教わった。「12目を作って袋編みを150センチ編みなさい」と言われた。これは腰紐としてちょうどよいのだ。

暫くの間は、ごく慎重に編んでいたせいもあって、なんのトラブルもなかったが、ある日、袋状になっていなければならぬはずの編み後が、どこかで目がくっついていてことに気がついた。慌てて先生に見ていただくと、滑り目をするところを表編みにしてしまつたからだという。先生は10センチほどを解いて直してくださいました。だが、慣れてきたのと不注意とでまたも失敗した。今度は、最初に「目」の作り方を教えてもらった人に頼んだ。また気を取り直して編む。あーあ！またまた目はくっついてしまった。今度は一目一目解いては棒に掛けることを繰り返して、2、3時間か

かつて自分で直した。とうとう150センチの紐はできあがった。

今度は裏編みを教わり、藤編み、浮き菱編み（うきびしあみ）、花菱編みなどの模様編みを沢山教わった。

中学になって、「カーディガンを編みなさい」と言われたのはたまらなくうれしかった。裾のゴム編みから、身頃、袖と編み上げ、脇や袖下を接（は）ぎ、身頃と袖を接ぎ合わせるの、息を詰めるような作業だった。

襟を編むところで、わたしは転校することになって、この教材の毛糸は学校のものであったので、編み物の先生に未完成のままお返ししなければならなかった。

転校してからも、わたしの編み物生活は細々ながら続いた。編み物を習う課程は、多くの人が似たような経過を辿ると思うが、その最初の段階で、編み物と直接関わるのではないけれど、わたしは、もう一つ大きな衝撃を受けた。糸掛けを教えてくれた人が、言ったのだ。「あなたが着ている洋服も着物も、みんなこの毛糸よりずっと細い糸でできているのよ。機織り姫の織女のお話を知っているでしょ？あの機織りは、細い糸を織って布にする仕事なの。縫い糸があるでしょ？あの糸を、編み棒ではないけれど、もっと細い道

具を使って布を作るの。その布を切ってスカートやブラウスを作るのよ」という。あんな細い糸が布になる？毛糸の中細を使って編むのも大変そうなのに、あんな細い糸を織って布にする？「本当は、この毛糸も羊の毛を刈って綺麗に消毒したり太さを揃えたり、色を染めたり、一杯仕事があつて、わたしたちが使えるようになるには、いろいろな人がお仕事をしているの」

小学2、3年のわたしはただおどろくばかりであつた。

そして驚きはさらに続いた。8月のお盆に父の実家へ行ったときのことである。寝ていると、雨が降るような音がする。「あれ何の音？」と叔母に聞くと、「お蚕さんが桑の葉を食べているの、お蚕は糸を作る虫なの」、それからわたしに分かる程度に蚕が糸を作る課程を話してくれた。え？え？え？「触つてもいい？」、叔母は蚕棚の側へ連れて行ってくれた。このグニャグニャした虫が絹糸を作る？驚きながらも桑の葉を食べている蚕を、手に取ったり戻したりして遊びながら考えた。桑の葉の減りが早くなるごとに蚕はどんどん大きくなってゆく。叔母は、藁で、繭が置かれる波形のを沢山編んでいる。8月の終わりになれば、蚕は桑を食べなくなり、蚕の口から糸を出して繭を作り、糸を出しきった蚕は繭を残して死んで蛹にな

るといふ。(わたしは覚えてるのは怪しいかもしれないが?)、「そういうこと、みんな見られるからもつと沢山泊まっていきなさい」と叔母は誘ってくれた。わたしの眼は毎日不思議さにまんまるになっていったのだらう。もう少しでわたしは母と叔母におねだりするところであつた。ご飯を食べられなくてもいい、全てを見られなくても、臭いやみんなの動きや言葉からなにかを知ることでもできるかもしれない。でも、わたしには触ることはできないのだ。それに本能的に少し怖いような氣もした。やつぱり一人で残っていたい、迷いに迷つた。けれども小さなわたしでも叔母の忙しさを想像することができた。大好きな叔母さんの邪魔をしてはいけないということ、母の困惑を推し量れたことの方が自然であらう。しかし、糸を、その口から出すという現場に、こんなに近く見られる機会を逃したことも残念でならない。わたしが大きくなつてからは、もつと叔母への遠慮が働いて、結果的には「蚕の神秘」を見ることはできなかった。しかも叔母は数年後に病死してしまつたのである。

今、わたしはあの夏の日、手の感触、わたしの手から逃れて早く桑の葉にとりつきたがつていた、蚕のモヤモヤ足を懐かしく、思い出している。

2011年8月2日(火)

東京漢点字 学習会報告

東京漢点字羽化の会 菅野良之

平成23年度 第3回(第49回) 報告

1 日時 平成23年6月18日(土)

18時30分～20時30分

2 場所 ヒューマンプラザ7階 第1会議室

3 出席者(省略)

4 周知事項

(1) 配布物

『漢点字講習用テキスト 初級編

第五回(全十回)』

機関誌『うか』第76号 2011年6月

(2) 岡田代表の講演(有)トランスファ福祉サ―ビスの研修)……障害者と健常者の接点を増やしたいということ、4回程度行う。第1回は7月15日(金)午後6時から横浜で行う。

5 使用教材

漢点字講習用テキスト初級編 第四回(全十回)

漢点字編、墨字編

6 学習会内容

・前回の復習

5 複合文字 (2)

4. 第1基本文字と比較文字で

構成される文字 (4)

※「里」(4・5とリ・1・2・5の点)「を」をパーツとして含む文字5つ。

(61)「量」(リ下がり・2・3・6の点)と里(リ・1・2・5の点)で表す。

(62)「重」(3・6の点と里(リ・1・2・5の点)で表す。

(63)「種」(禾偏(ノ・2・3・4の点)と重(リ・1・2・5の点)で表す。

(64)「動」(重(リ・1・2・5の点)と力(又・1・3・4の点)で表す。

・「動(リと又)」を旁とする文字一つ。

(65)「働」(人偏(ナ・1・3の点)と動(リ・1・2・5の点)で表す。

・今回の学習

※「貫」(4・5の点とツ・1・3・4・5の点)をパーツとして含む文字一つ。

(66)「慣」(立心偏(ル・1・4・5の点)と貫(ツ・1・3・4・5の点)で表す。字式は立心

偏+貫。子安貝に穴を開け、糸を通して幾重にも重ねたことに発している。音読みのカンは漢・呉音。訓読

みに「な・らう、な・る」がある。熟語に「慣行」

「慣例」「見慣れる」「聞き慣れる」などがある。

※ カタカナの「ク」を頭に置いた文字3つ。

(67)「負」(又(1・3・4の点)と貝(オ・2・4の点)で表す。字式はク・貝。クは人、貝は

財産を意味する。音読みのフは漢・呉音。訓読みに

「おい、そむく」がある。熟語に「負荷(ふか、お

いに)」「自負」「背負う」「請負う」「根負け」「御

負け(おまけ)」「顔負け」「負け惜しみ」「負け知

らず」「負け越し」などがある。

(68)「免」(又(1・3・4の点)と足(2・5の点)で表す。字式はク・日・ひとあし。音読

みのメンは呉音。熟語に「減免」「罷免」「免責」「免

税」など。

(69)「勉」(免(又・1・3・4の点)と力(又・1・3・4の点)で表す。字式は免+力。音読

みのベンは漢音。名前に「つとむ」がある。熟語に

「我利勉(がりべん)」がある。

※「斤」(4・5の点とオ下がり・3・5の点)をパーツとして含む文字四つ。

* 斤は斧を象った文字で、旁では「おのづくり」となる。

(70)「近」(しんによう(ヒ・1・2・3・6の点)と斤(オ下がり・3・5の点)で表す。字式

はしんによう十斤。音読みのキンは漢音、コンは慣用音、ゴンは呉音。熟語にキンは「近況」「近辺」「近々」「近隣」「親近感」「最近」「近海」「近距離」「至近」「側近」「近畿」、コンは「右近」「左近」、訓読みに「近道」「御近付き（おちかづき）」など、別の読みでは「近江（おうみ…琵琶湖）」「近衛（このえ）」がある。

平成23年度 第4回（第50回）報告

1 日時 平成23年7月16日（土）

18時30分～20時30分

2 場所 ヒューマンプラザ7階 第1会議室

3 出席者 （省略）

4 使用教材

漢点字講習用テキスト初級編 第四回（全十回）

漢点字編、墨字編

5 学習会内容

・ 前回の復習

5. 複合文字（2）

4. 第1基本文字と比較文字で構成される文字（4

※ 「貫」(4・5の点とツ…1・3・4・5の点)「を」をパーツとして含む文字一つ。

(66) 「慣」 立心偏(ル…1・4・5の点)

と貫(ツ…1・3・4・5の点)で表す。

※ カタカナの「ク」を頭に置いた文字3つ。元は「刀」

(67) 「負」 又(1・3・4の点)と貝(オ…2・4の点)で表す

(68) 「免」 又(1・3・4の点)と2・5の点で表す

「免」を含む文字、「晩」「挽」と、「兔」(点は兔が走り回っている様子)を含む文字、「逸」(旧字はしんによう十兔)「冤」。

(69) 「勉」 免(又…1・3・4の点)と力(又…1・3・4の点)で表す。

名前の「つとむ」には、勉のほか、勤、努、務、力が使われる。

※ 「斤」(4・5の点とオ下がり…3・5の点)「を」をパーツとして含む文字四つ。

(70) 「近」 しんによう(ヒ…1・2・3・6の点)と斤(オ下がり…3・5の点)で表す。

・ 今回の学習

(71) 「質」 斤(オ下がり…3・5の点)と貝(オ下がり…3・5の点)で表す。字式は(斤十斤)／貝。斤は神から神託を受ける意味があり、2つ

あるのは大きな力を意味している。音読みのシツは漢音、シチは呉音。訓に「たち」がある。熟語に「本

質 “形質” “品質” “質素” “良質” “氣質(きしつ、かたぎ)” “言質(げんしつ、げんち)” “材質” “資質” “蛋白質” “木質(きだち・木の性質)” “問質(といただ・す)” など。

(72) 「所」 戸(ト・2・3・4・5の点)

と斤(オ下がり・3・5の点)で表す。字式は戸十斤。戸は廟(みたまや)の戸を意味している。音読みのシヨは漢・呉音。熟語に “御所” “場所” “近所” “居所” “所帯” “急所” “所感” “高所恐怖症” “所詮” “長所、短所” “適材適所” “所謂(いわゆる)” “余所(よそ)” “所為(せい)” “閑所” “至る所” “詰る所” など。

(73) 「折」 手偏(テ・1・2・3・4・5

の点)と斤(オ下がり・3・5の点)で表す。字式は手偏十斤。若い草木を刃物(斧)で折るところからきた文字。音読みのセツは漢・呉音。熟語に “右折、左折” “折柄(おりがら)” “折込み” “折畳み” “折詰” “菓子折り” “折檻(せつかん)” “手折る(たおる)” “押し折る(へしおる)” “御端折り(おはしより)” など。

※ 「屯」 (4・5の点とフ・1・3・4・6の点)「を旁とする文字。

(74) 「純」 糸偏(イ・1・2の点)と屯(フ・1・3・4・6の点)で表す。字式は糸偏十

屯。音読みのジュンは呉音。名前に “すみ” がある。熟語に “純潔” “純真” “純度” “純白” “純米” “不純” “純裏(ひつら・衣服の表と裏が同じ色のこと。一説には総裏のこと)” “がある。

「報告と」案内

一 お見舞い

この三月十一日の東北地方大震災から、来月・九月十一日で六ヶ月を過ぎることになります。

未曾有の天災というフレーズも既に慣用となつてしまい、あるべからざる爪痕だけがなお残っておりま

す。
『文藝春秋』六・七・八月号に再録された、作家の故・吉村昭氏の関東大震災、東北大津波に関する一連の発言が私の中で、三・一一以前と以後に、その意味合いを大きく異にしていることに、気付かされずにはおられません。

私たちの住む非被災地では、直後の交通や物流の混乱が終息するとともに、以前の日常が返ってきた。しかし日常は訪れても以前と同じとは行かないのが、被災された皆様です。

私たちはそのような皆様と共に生きて行くのだということを、肝に銘じたいと思います。

息の長い支援を続けて参ります。

二 会員の募集

① 横浜漢点字羽化の会では、以下の要領で、新会員募集の講習会を開催致します。多数のご参加をお待ち申し上げます。

日程… 10/05(水)、10/21(金)、11/04(金)、何れも14…00～16…00。

会場… 10/05・21両日は、横浜市健康福祉総合センター8F、ボランティアコーナー。11/04は、同9F、テーブルプリント室。(JR・市営地下鉄、桜木町駅下車)

受講料… 一〇〇〇円(資料代)

申し込み… 往復はがきで、

木下和久

〒245-0013 横浜市区中田東四・八・八

締め切り… 9/20必着。

② 東京漢点字羽化の会

二〇一二年2月に予定しております。詳細は、本誌次号にて。

三 字解音訳プロジェクト

本誌前々号・前号で、『常用字解』と『人名字解』

の音訳書を製作していただくためのプロジェクトを立ち上げていただいた旨お願い致しましたところ、多数の音訳者の皆様からお手を挙げていただきました。

東京の墨田区立寺島図書館を会場に、6/29(水)と8/01(月)の二回、打ち合わせをさせていただきました。ご参加下さいました音訳者の皆様の中からは、漢字に関する書物の音訳は未経験とのことでした。今後、本会が同書を漢点字訳して参りました折りのノウハウをお伝えしながら、よりよい音訳書の形を探って参りたいと考えております。

打ち合わせの中で音訳者の皆様が戸惑われておられたことに、読者である視覚障害者が、漢字の知識を持っているかどうかというものがありません。言い換えれば、漢字の知識のない人に、どう伝えるか(?)というものです。

そこで私たちは、漢字の知識の保有者だけを対象にするという、従来の音訳書にはない、対象を限定するということをご了承いただきました。これによって中途で視覚障害を負われた方に、先天障害の方へのサービスとは異なった、適材適所のサービスへの一步となることが期待できるものと考えます。

問題点を一つ一つ洗い出して行きたいと考えております。ご期待下さい。

漢文のページ

大空と下界

天^{テン}之^ノ蒼^{ソウ}蒼^{ソウ}、其^カ正^{セイ}色^{シキ}邪^カ。其^レ遠^{エン}而^ニ無^{ケレバ}所^ニ至^リ極^マ邪^カ。其^ノ視^ル下^ヲ也^ヤ、亦^タ若^{クナラン}是^{クノ}則^ノ已^ミ矣[。]

且^ツ夫^レ水^ノ之^ノ積^ム也^ヤ不^レ厚^{カラ}、則^チ負^フ大^ニ舟^ヲ也^ヤ無^シ力[。]覆^{セバ}杯^ニ水^ヲ於^ニ坳^ニ堂^ニ之^ニ上^ニ、則^チ芥^ニ為^{ルモ}之^ガ舟^ト、置^{ケバ}杯^ヲ焉^ニ則^チ膠^ス。水^ノ淺^{クシテ}而^ニ舟^ヲ大^ニ也[。]

風^ノ之^ノ積^ム也^ヤ不^レ厚^{カラ}、則^チ其^ノ負^フ大^ニ翼^ヲ也^ヤ無^シ力[。]故^ニ九^ニ万^ニ里^{ニシテ}、則^チ風^ノ斯^ニ在^リ下^ニ矣[。]而^ル後^ニ乃^ニ今^ニ培^{ケラレ}風^ニ、背^ニ負^{ヒテ}青^ニ天^ヲ、而^ニ莫^シ之^ヲ夭^ス闕^{スル}者[。]而^ル後^ニ乃^ニ今^ニ將^ニ図^{ラント}南^{スルヲ}。

莊子（そうじ・書物名）逍遙遊篇より②

天の蒼蒼（そうそう）たるは、其れ正色か。其れ遠くして至り極まる所無ければか。其の下を視るや、亦（また）是くの若くならんのみ。且（か）つ夫（そ）れ、水の積むや、厚からざれば、則ち大舟を負うや力無し。杯水を坳堂（ようどう）の上に覆くつがえせば、則ち芥（あくた）これ舟と為るも、杯を置けば、則ち膠（こう）す。水淺くして舟大なればなり。風の積むや、厚からざれば、則ち其の大翼を負うや、力無し。故に九万里にして、則ち風斯に下に在り。而る後に乃今（いま）風に培（たす）けられ、背に青天を負いて、これを天闕（ようあく）する者無し。而る後に乃今（いま）將（まさ）に南するを図らんとす。

（大意）空が青いのは空本来の色なのだろうか。それともあまりの遠くから、果てなく重なる層のため、青く見えるのだろうか。鵬が下を見おろせば、下から見あげるのと同じように青く見えていることだろう。水についても、厚く（深く）ないと、大きな舟を浮かべるだけの力がない。風の層も厚くなければ、鵬の大きな翼を支えるだけの力がない。九万里と飛翔する高さがあるのだから、初めは風が厚い層を飛翔する者にも何者にも邪魔されることがなく、南へ向けて飛んでゆく。邪魔されることなく、それを支えるだけのものは、大きなものには、それが必要である。



(点字は、右ページ太字「且夫…舟大也」の部分)

且 ツ 夫 レ 水之 積 ム 也 不 レ バ

厚 カラ 、 則 チ 負 フ 大 舟 ヲ 也

無 シ 力。 覆 セ バ 杯 水 ヲ 於 堂

之 上 ニ 、 則 チ 芥 為 ルモ 之 ガ

舟 ト 、 置 ケ バ 杯 ヲ 焉 則 チ 膠

ス 。 水浅 クシテ 而 舟 大 ナレ バ 也 。

～ 土偏 + 幼 よう

＊「坳」はJIS第1・第2水準にない漢字。字式で漢字の形を説明します。

坳堂（ようどう）＝床のくぼみ。
膠（こう）＝くっつく。

そもそも、水について考えても、
厚くないと、つまり深くないと、
大きな舟を浮かべるだけの力が
無い。杯一杯の水を、ひっくり
かえて床のくぼみに入れる。
塵芥（じんかい）はそのわずかな
水に対し、舟となって浮かぶ
ことができるが、今までその水
を入れていた杯を舟としようと
しても、杯は浮かばず、床にくっついてしまう。水が浅くて、舟
(杯)のほうが大きく重いからだ。（訳文・渡辺精一）



参照図書：渡辺精一『朗読してみたい中国古典の名文』（祥伝社新書）



漢点字講習用テキスト

初級編 第二十七回

5 複合文字 (2)

1. 第一基本文字と比較文字で構成される文字 (1)

本章では、これまでに出て来た基本文字、〈第一基本文字〉と〈比較文字〉が部首として構成される文字をご紹介します。

※「中」を部首として含む文字三つ。

(1) 仲 チュウ なか

「人」偏」の右側に「中」を置いた形の文字です。本来の意味は、兄弟の真ん中の男子、あるいは一年を四等分する季節の真ん中の月の意味を表す文字です。そこから真ん中という意味が生じました。さらに、人と人との間を取り持つ人、仲立ち、人の内輪な関係、仲間の意味に用いられます。漢点字では、「 (人偏)」と「 (中)」で表されます。

「仲人 (なこうど)」「仲間 (なかま)」「仲介 (ちゅうかい)」「仲秋の名月」

(2) 沖 チュウ おき

「さんずい」の右側に「中」を置いた形の文字です。「おき」と読んで、海の岸からずっと離れたところ、見晴るかす何もない海原を意味する文字です。漢点字では、「 (さんずい)」と「 (中)」で表されます。

「沖縄」「沖合い」「沖の白波」「房総沖」「三陸沖」

(3) 忠 チュウ

「中」の下に「心」を置いた形の文字です。真心を持って、誠実を尽くしてという意味を表します。「君に忠、親に孝」、つまり忠誠心を表す文字です。人名に用いられる場合は、「ただ」と読みます。漢点字では、「 (中)」と「 (心)」で表されます。

「忠義心」「忠誠心」「忠君愛国」「忠臣蔵」

※「右」を部首として含む文字一つ。

(4) 若 ジャク ニャク ニャ わか - い も - し



も - しくは

「草𠂔冠」の下に「右𠂔𠂔」を置いた形の文字です。元は、若いしなやかな女性の身体を象った文字でしたが、毛髪の色が草冠になり、その下が右の形に変わりました。「わかい」と読んで、柔らかい、しなやかな身体、そのような人を表します。またそこから、数が少ないという意味も生まれました。「もし、もしくは」の読みは、現在はほとんど使われませんが、漢文の訓読に由来するもので、昭和の初期以前の書物には、普通に用いられています。漢文訓読に由来する読みには、他に、「その、なんじ、しかり、いかん、したがう、ごとし、かくのごとき」等があります。また、仏教でいう「般若（はんにゃ）」とは、悟りの一つのことです。漢点字では、「𠂔𠂔（草冠）」と「𠂔𠂔（右）」で表されます。

「若年」「若輩」「若干」「老若男女（ろうにやくなんによ）」「般若心経」「若水」「牛若丸」「若大将」「若者」

※「左𠂔𠂔」を部首として含む文字一つ。

(5) 佐𠂔𠂔 サ たす - ける すけ

「人𠂔偏」の右側に「左𠂔𠂔」を置いた形の文字です。脇から手を差し伸べて助ける、側にいて手助けするという意味を表します。「すけ」の読みは、平安時代の官位の名称に見られます。「さ」の読みは、軍隊の上級将校の位に用いられます。また「さ」は、人の名に多く見られます。漢点字では、「𠂔𠂔（人偏）」と「𠂔𠂔（左）」で表されます。

「佐藤さん」「佐々木さん」「佐渡島」「補佐」「勤皇佐幕」

※「大𠂔𠂔」を部首として含む文字六つ。

(6) 器𠂔𠂔 キ うつわ

「大𠂔𠂔」の上と下に「口𠂔」を二つずつ横に並べて置いた形の文字です。「大𠂔𠂔」は、元は「犬𠂔」で、犬の意味が薄れた末に、大の形になりました。「犬𠂔」は昔、聖なる動物で、神様に犠牲として捧げられたもので、この「器𠂔𠂔」は、その犬の肉を容器に入れて神様に捧げる形を表しています。下って、「食器、容器」等、ものを入れるもの、「器量、器用」等、人間の性格や大きさ、「消化器、呼吸器」等、身体の働きをする器官、その他多くの道具の意味を表しています。漢点字では、「𠂔𠂔（大）」と「𠂔𠂔（口）」で表されます。

「器量」「器用」「器具」「器機」「食器」「容器」「呼吸器」「消化器」「点字器」

編集後記

▼私が前任者の宇田川さんから当誌の編集を引き継いで、5年あまりたちました。号数

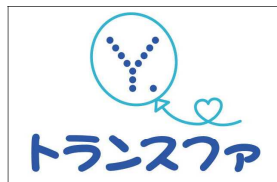
にして33号分です。宇田川さんに担当していたいた最長記録に並んだことになります▼私は編集とともに印刷・製本の担当を、更にその数年前から前任者の宗助さんから引き継いで行っています。いずれの作業も、それなりにちよつとしたコツが必要で、誰でも代わっていただけるといふものでもありませんが、それほど難しいものではありません。いつかはこれを引き継いでくれる後継者が出現するようにと期待しているのですが、なかなかそういう人が現れてくれません。ご覧いただければおわかりのように、紙面の構成は全くマンネリ化して、ちつとも進歩していないのではないかとお叱りを受けそうです。ま、作る方としては、毎回同じ方法を踏襲するのが楽で、手間がかかりませんし、いくらかでも読みやすいようにとの工夫は凝らしているつもりです▼どうぞ、お気づきの点のご遠慮なくおっしゃって下さい。連絡先は当ページの下に表記された岡田代表宛のEメールでも結構ですし、直接私宛のEメール(Kino_kaz@kvd.biglobe.ne.jp)でも結構です。(木下 和久)

(有) 横浜トランスファ福祉サービス

障害者自立支援法の下、障害者にガイドヘルパーを派遣して、外出を支援しています。対象は、横浜市在住・在宅の、視覚・肢体・知的重度障害者。

常時募集・ガイドヘルパー：資格・ホームヘルパー2級以上、および視覚・肢体障害者移動介護研修修了。

業務概要：上記障害者の外出支援。詳細は担当・柳田まで。



〒231-0063 横浜市中区花咲町1-46-1

GSプラザ桜木町1104

電話: 045-263-0306

FAX: 045-263-0316

E-MAIL (岡田健嗣) : okada_tr_eib@ybb.ne.jp

横浜漢点字羽化の会 URL : <http://www.ukanokai-web.jp/>

《表紙絵 岡 稲子》 次回の発行は10月15日です。

※本誌(活字版・DAISY版・ディスク版)の無断転載は固くお断りします。